

修紅短期大学 同窓会報

第 21 号

発行 令和2年3月11日
編集 修紅短期大学同窓会
TEL 0191-24-2211(代)



令和へ、 希望と輝ける未来を

同窓会 会長

鈴木悦子

会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。一昨年の同窓会定期総会において千葉勝重前会長のあとを受け、大役を引き受けることになりました。皆様のご支援ご協力なくしては務まりません。どうぞよろしくお願い致します。

さて、東日本大震災から九年目を迎え、あの時小学生だった子ども達が成人となり、支えてくれた方々への感謝を忘れず、社会の役に立つ仕事をしたいという若者達の言葉。令和の時代も希望を持ち、輝ける未来がやってくるのではと安堵致す思いです。短大においても、開学以来、教育目標のひとつである「すぐれた社会人になる前に、豊かな人間性を」と今でも重視してくださる教育のお蔭で、地元を中心に時代に合わせた、求められる人材育成が就職率にも表れております。

今年三月、幼児教育学科五十一名・食物栄養学科二十三名の卒業生が社会に踏み出すことになり、同窓会会員はおよそ五千三百名となるようです。同窓会の活動も時代に合わせ、まず会員のために、



母校の現況とご挨拶

修紅短期大学 学長

牧野 順四郎

同窓会の皆様には、日頃より母校修紅短期大学に多大なご協力とご支援を頂戴しております事、厚く御礼申し上げます。

日本の少子化はますます進み、それに伴って高齢者の割合は一段と増えています。百歳を越える高齢者は珍しくなくなりました。平均寿命も男女とも世界のトップを走っています。これはこれでめでたい話ですが、問題も少なくありません。

一方、少子化も高齢化に劣らぬ大きな社会問題であることは、学校関係者ならば深刻に認識しています。現在それは高校生の減少に至り、我が国の大学関係者は、いま、受験者の激減という苦境に立たされています。修紅短期大学は現在その典型的な形で存立しています。そのただ中にいる私どもは待たなしで入学者増を考えなければなりません。学生がいなければ、教育も養成もできませんので、学生募集活動が最優先の作業になっていきます。



学生の教育にかけては、私どもは六十年以上の歴史を背負って頑張っていますし、学生の就職についても、伝統の強みを生かして完全就職を果たしています。その職場も、多くは一関市を中心とする近隣の地域にあり、県南地域にある唯一の高等教育機関として、今もその役割を果たし続けております。

本学はこれまでずっと、地域との連帯を重視してきましたし、実践的な活動も行ってきました。この実績をもとに、昨年、念願かなって一関市と修紅短期大学との間で「地方創生に関する連携協定」を締結することができました。調印式の新聞記事と写真はご覧になった方も多いと思います。これから、地域社会に根ざした修紅短期大学として、この地でさらに根を広げ、いつの時代にあっても大切な、子どもの「保育・教育」と身体づくりに必要な「食育」を軸として、学生教育をして参ります。

同時に、一関修紅高等学校との「高大連携」や「高大接続」も大きな実現課題です。少子化が進む中、同じ系列高校からの本学への進学者数を増やすように、本学の魅力を訴えるため、高校での模擬授業や短大授業への出席、共同企画のイベントや共同ボランティア活動など、高校と短大が連携して良い知恵を絞っていかなくてはなりません。

最後になりますが、現在、どの学校でも同窓会の会員減少が大きな問題になっています。個人情報報告の問題で必須の活動である会員名

簿すら作成が難しくなっています。が、ひとつの問題は、会員になってもどんなメリットがあるの？という質問に、この同窓会も上手に答えられていないことです。新規加入者を減らさないために何が必要かを考えていくことが大事だと思います。

修紅短期大学の存続を可能にする大きな力として、卒業生の皆さまのご協力とご支援が欠かせません。学生募集、就職問題について、これまで以上にお世話になる事でしようが、今後とも是非に宜しくお願い申し上げます。

第二十九回 同窓会定期総会報告

第二十九回同窓会定期総会が、平成三十年七月八日にホテルサンルート一関に於いて開催されました。参加者は、同窓生十八名でした。牧野順四郎学長をはじめ、恩師高橋秀子先生、鈴木美樹子先生、佐藤恵一先生にご出席いただきました。

総会で次の各議案が承認、可決されました。

- 一、平成二十八・二十九年度会務報告、決算報告について
- 二、平成三十・三十一年度事業計画、予算計画について
- 三、平成三十・三十一年度役員改選

役員（平成三十・三十一年度）
会長 鈴木悦子
副会長 寺崎敏子
若生啓子
監事 関波嘉久子
佐藤紀子

総会後、懇親会が行われました。

アトラクションとして、修紅短期大学タッチベルクラブの学生の皆さんが、合唱や演奏で会場を盛り上げてくれました。恩師の先生、同窓生の皆さんとの再会は懐かしく、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



同窓会定期総会は二年に一度の開催です。第三十回を記念する今回は数多くの同窓生の参加をお待ちしております。



食物栄養学科近況

食物栄養学科 講師
富岡 佳奈絵

平成から令和へと時代が移り、令和元年度で食物栄養学科は、栄養士養成をスタートして十八年目となりました。

学科の先生方は、今年度より学科長の高橋秀子教授をはじめ、青山裕二教授、加藤憲一教授、渡邊美紀子講師、横山恵助教、佐藤佳織助教、阿部真弓助教、阿部友衣子助手、富岡です。平成三十一年三月には、前学科長鈴木惇教授、小野智子准教授がご退職されました。鈴木教授には、平成十三年より栄養士養成の立ち上げからご尽力いただき、現在の食物栄養学科があります。皆様もご存じの通り、永きにわたって学科長もお務めになられ、今年度、名誉教授に就任されました。今後ともよろしくお願い申し上げます。また、小野准教授には栄養士課程だけでなく教職課程においてもご指導いただきました。大変お世話になりました。

さて、本学は平成三十一年に一関市との連携協定を結び、より密な取り組みを行なっております。食物栄養学科では、今年度、市立幼稚園および小学校などで食育指導を行ないました。幼稚園では、三〜五歳児に正しい姿勢や箸の持ち方などの指導、小学校では、学生が校外実習の際に立案した献立を給食として提供するとともに、給食時間に指導を行ない、児童と一緒にいただきました。また、



小学校での食育指導

選定の補助などを行ない、栄養士の活動の実際を知るとても貴重な体験になったようです。

そして、地元企業とのコラボレーションによるお菓子やお弁当の企画・開発にも積極的に取り組んでおります。第八回全国ご当地もちサミット2019一関には、(株)菜花堂と横山助教の卒業研究で共同開発した「もってりこ」が出品予定でした。残念ながら台風十九号の影響で中止となってしまいました。令和二年四月に開催される、もちフェスティバルでの販売が決まりましたので、ぜひお召し上がりください。

食物栄養学科の学生が関わったコト・モノなどを卒業生の皆様が目にする機会がこれから増えるかもしれません。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



「いわて栄養の日」(農業祭)



幼児教育学科の授業紹介

幼児教育学科 助教
中尾 彩子

同窓会の皆様、はじめまして。

幼児教育学科助教の中尾彩子と申します。修紅短期大学にきて四年目の冬を迎えました。関東出身の私は毎年「今年の冬は越せないかもしれない」と震え上がりながら過ごしていましたが、今年は慣れたのか、暖冬のせいなのか、そんな心配もせず過ごすことができています(十二月末現在)。

では、ここで私が行っている授業の一つをご紹介します。

保育実践演習Ⅱ：教職・保育実践演習Ⅱでは、附属こども園の年長組さんと二年生が裂き織りをするという内容を行っています。

後に一関市民俗資料館を訪れる機会があり、そこで旧一関市では「かばた織」と呼んでいたことを知りますが、古布を裂いて織るという地域の手わざに学生も園児も少しも触れることができればと当時一緒に担当していた先生と考えた授業です。二年生にはダン



作業の様子①

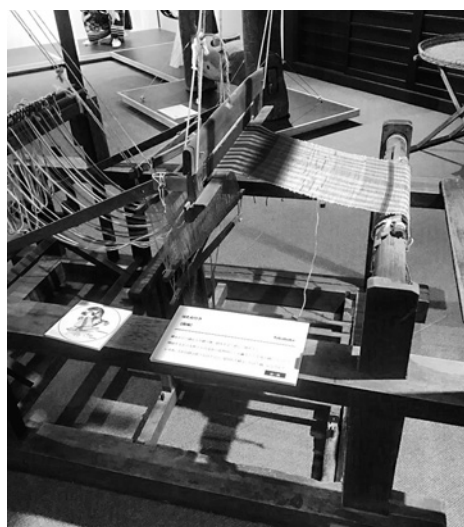
いや園児たちのセンスの違いで大小様々な色とりどりの裂き織りコースターができています。いつか、本物の織り機を使ってかばた織りができたら……。そんなことを担当者としては夢見ています。



作業の様子②



作業の様子③



「はたおりき」



展示会の様子

ボール織り機の作り方と織り方だけ伝え、園児と行うにはどのような準備が必要で、どのような配慮が必要かを考え指導案を作成してもらいます。二年生後期の授業

で行っているので、今までの講義内容や実習で得た知識と技術を確認する場にもなっていて、学生たちはそれぞれに園児が楽しく過ごせるように一生懸命準備をします。場所は短大の教室で行うので、園児たちにはちょっとしたイベントのように楽しんでもらえているのではと思っています。完成した裂き織りはこども園に展示していただいています。作品は学生の指導案の違

同窓生だより

同窓会報に寄せて

(昭和55年3月)

幼児教育学科卒業
(市内幼稚園勤務)

岡 幸子



同窓会報原稿
依頼を受け久しぶりに卒業アルバムを開いて見た。その中の編集後記に、「私たちの青春のページをめくろうとする時、あなたは

何を感じますか。共に学び励み生きてきたこの二年。私たちにあって貴重でかけがえのない青春ライフです。その大切な時をごく一部ではあるが編集した。このアルバムを開くたびに青春の出来事を思い出すことができればと思っています。」と、ありました。

まさしく学生時代のこの頃は青春真っ只中。当時、小梨良学院長先生、大島学長先生のもと、家政学科十九名、幼児教育学科六十二名(二クラス)計八十一名が在籍していました。

印象的だったのが制服、臙脂色のスーツに臙脂色のネクタイ、街を歩けば修紅短大生であるとするぐわかるほどとにかく目立っていました。

そして階段講義室での授業、私はいつも後方の席を定位置として講義を受けていたことを思い出します。中でも児童文学の森田先生の授業が印象的で、ハスキーな声で迫力ある講義に後方席であっても引き寄せられる内容にあったとい

う間の時間でした。実際に保育現場に入った際に実践が活かされるなど多くのことを学ばせていただきました。

また、短大にはクラブ活動があり、当時私は児童文化部、卓球部に所属したくさんの仲間と共に楽しく活動させていただき、今でもつながりをもち交流させていただいています。学生時代の様々な思い出は数多く、どれも私にとってかけがえのない大切な宝ものになっています。あの頃があったことからこそ今の自分があると言っても過言ではありません。幼児教育の基礎基本を学ばせていただいたことに感謝しております。

修紅短大を卒業して四十年。私は今年定年を迎えます。自分の希望であった幼児教育に携わり四十年間を振り返ればいろいろなことがありました。

ここまで務められたのも、私を支え励ましてくださった母校の先生方、先輩や同僚の皆様、家族、これまで出会ったすべての方々のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、何より自分に日々強いパワーをくれた純粋な心をもつ、笑顔いっぱいの子ども達に感謝です。

これからも、今の気持ちを忘れず充実した人生を歩んでいきたいと思っています。
最後に、母校の益々の発展と同窓生皆様のご活躍をお祈り致します。

二年間で成長出来たこと

(平成30年3月)

食物栄養学科卒業

大石 莉子



卒業してから約二年が経とうとしており、時がたつのは早い

なとしみじみ感じています。

私は、盛岡市にある東北フードサービス株式会社に入社し、一年三ヶ月老人施設の勤務をしています。今年の夏に本社への異動が決まり、現在は幼稚園の献立作成・発注などを行っています。

私は、当時三十五名ほどの入居者がいたサービス付き高齢者向け住宅というところに勤務しました。最初は覚えることが多く提供の流れをつかむまで苦労しましたが、常にメモを取り質問をして徐々に流れをつかむことが出来ました。

私が常に意識していたことは、細かいことでもメモを取る事です。学生生活でもメモを取るようになっていたのも自然にできたと思います。一年間この施設に勤務した後、住宅型有料老人ホームに異動しました。ここはすべて工場から真空で料理が届き現地で温め提供する施設で前の施設とは少し異なる提供でした。また、おやつ

の提供もあったので時間の使い方や作業効率の組み方を自分で考えなければなりません。いつまでにどの作業を終わらせないといけないのか、とても苦労しましたが、コツと回数を重ねることで徐々に余裕をもって作ることが出来ました。現在は、本社で幼稚園の献立作成を主にしつつ伝票整理や発注などを行っています。実習で発注や献立作成を行っていたためスムーズに立てられることが出来ました。今とても苦労しているのが、原価を守る事です。献立や給食を作るうえで原価は必ず関わってきます。目標は、四十五〜五十%以内に収めることと言われています。最初は、どう抑えればいいのかわからず、六十五%の数字を出してしまいました。これではいけないと思い、どの魚が安いのか、旬の野菜を調べたり、献立の組み合わせを変えたりして最近目標内での作業を終わらせないといけないのか、とても苦労しましたが、コツと回数を重ねることで徐々に余裕をもって作ることが出来ました。現在は、本社で幼稚園の献立作成を主にしつつ伝票整理や発注などを行っています。実習で発注や献立作成を行っていたためスムーズに立てられることが出来ました。今とても苦労しているのが、原価を守る事です。献立や給食を作るうえで原価は必ず関わってきます。目標は、四十五〜五十%以内に収めることと言われています。最初は、どう抑えればいいのかわからず、六十五%の数字を出してしまいました。これではいけないと思い、どの魚が安いのか、旬の野菜を調べたり、献立の組み合わせを変えたりして最近目標内での



修紅短期大学からのお知らせ

「もってりこ」

ことが決定いたしました。ぜひ会場に足を運んでいただき、ご賞味いただければ幸いです。

教員免許状更新講習の開催のご案内

修紅短期大学では、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、盛岡大学短期大学部、富士大学、岩手山青少年交流の家と連携し、教育職員免許法による免許状更新講習を開催しております。

修紅短期大学昨年度実績
幼稚園教諭対象選択領域5講習
栄養教諭対象選択領域2講習
詳しくは、岩手大学ホームページ、文部科学省ホームページをご覧ください。

修紅短期大学附属認定こども園の様子

修紅短期大学の敷地内にある修紅短期大学附属認定こども園の園舎の裏側にビオトープが完成いたしました。

園舎敷地内にできた水の流れ、園児たちが自然の生態系を観察できる環境となっています。

湧水をくみ上げ、常に水が流れています。秋には、トンボが卵を産み付ける様子や小さな水生昆虫が素早い動きで泳ぐ様子を観察することが出来ます。

身近に春夏秋冬の自然観察が可能な貴重な環境です。

風景や様子を観察する子ども達には、興味や関心の広がり、



(平成21年3月)
幼児教育学科卒業
西館 聖子 文



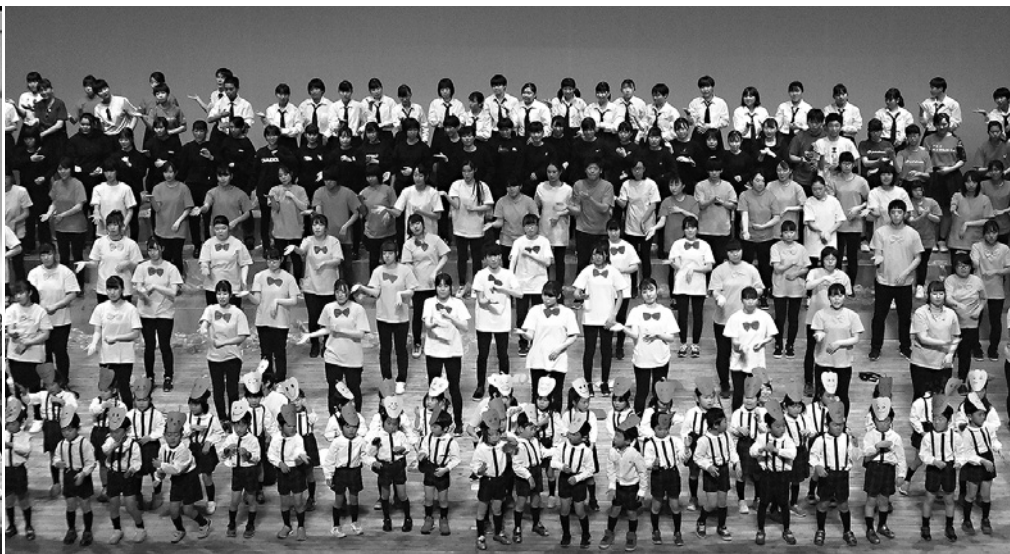
一関夏まつり「くるくる踊り大パレード」(令和元年度)



一関市との地方創生に関する連携協定
(平成31年3月12日)



第1回(平成30年12月24日)



第2回(令和元年11月23日)

「こどものためのファンタジックコンサート」が35年の歴史に幕を閉じ、こども園・高校・短大の合同企画によるリズムの祭典「こどものためのファンタジックフェスティバル」として生まれかわりました。



女子バレーボール部活動報告

東北バレーボール大学春季2部北リーグ戦

優勝(優秀選手:伊藤あみ)

2部南・北リーグ決定戦

(対:南リーグ1位・宮城教育大学 3-1)

1部・2部入れ替え戦

敗退(対:仙台大学 0-3) 2部北リーグ残留

東日本インカレグループ戦

敗退 対:平成国際大学 1-2

対:慶應義塾大学 1-2

岩手県民体育大会成年女子6人制の部

優勝(優秀選手:伊藤あみ・高橋琴美)

東北バレーボール大学秋季2部北リーグ戦

優勝(優秀選手:高橋琴美)

2部南・北リーグ決定戦

(対:南リーグ1位・山形大学 3-0)

1部・2部入れ替え戦

敗退(対:仙台大学 1-3) 2部北リーグ残留

東北地区総合体育大会バレーボール競技女子の部

ベスト8

事務局だより

●別紙に記載の各学年委員は、卒業時に選出された方で同窓会からのお知らせを伝えたり、取りまとめ等のお世話をいただく方々です。

●今年は隔年で開催している同窓会定期総会があります。(別紙参照)多くの会員皆様の参加をお待ちしております。住所が変更になった方、お名前が変わった方などは事務局へ連絡願います。(個人情報報告は、会報発送にのみ使用します。)

●ご生前のご恩に心より感謝申し上げます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

藤島 康彦 先生
元修紅短期大学教授
平成三十年十二月十八日逝去

菅原 明 先生
修紅短期大学名誉教授
令和元年十二月十六日逝去

■訃報■
修紅短期大学(麻生東北短期大学)の発展にご尽力された先生方の訃報をお知らせ致します。

名誉教授
鈴木 惇 先生
前食物栄養学科教授が令和元年十二月十二日付で名誉教授の称号を授与されました。(平成三十一年三月三十一日付退職)

編集後記

同窓会報第二十一号をお届けいたします。

同窓生の皆様方におきましては、いかがお過ごしでしょうか。去る「東日本大震災」から早くも十年近くの月日が過ぎようとしています。しかし、まだ何かしらの不都合を感じたり、様々な思いを抱えたりしながら、日々の生活を送っている方もおられるのではないかと感じております。

今号の同窓会報でもより多くの紙面を、母校の近況や学生の学園生活の姿、社会の中で積極的に活動なさっている同窓生の皆さんの様子、恩師先生方からの心温まる寄稿、また、前回の同窓会総会の内容など、より多くの情報を掲載するように努めました。若く爽やかに生き生きと学生生活を楽しむ後輩たちやとても元気で華やかに素敵な活躍をなさっている同窓生の皆さん、また、恩師諸先生の御活躍の姿やお話を拝見できるのは、たまらなくうれしいものです。うれしいだけではなくその姿や様子から、私たちも同じように頑張らなければと刺激を受け、生活や活動に向けての意欲を育むきっかけになったのではないかと、改めて思ったところでもあります。

今年、二〇二〇年は、二年に一度の同窓会総会が開催される年です。どうぞ、七月には「東京」へ足を運ぶ予定の方もおられると思いますが、その前段階にぜひ「一関」にお集まりください。地元の皆様だけでなく、各地域の代表として多くの同窓生の皆様に、総会へ参加していただければと思います。総会へ参加された皆様は、様々な企画を催し参加された皆様が楽しめるように努めたいと考えております。役員並びに関係者一同、心よりお待ちしております。

また、新元号「令和」になって初めて開催される同窓会総会です。節目の総会となります。会の中での思い出話とか、「昭和のころは○○だった。」とか、「平成〇〇年に、入学した。」などすぐに振り返りができ、懐かしいお話を輪を回せ、みんなが笑顔になって楽しむことができるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、さらなる紙面の充実を、編集員一同目指していきたいと考えております。同窓生の皆様からのご意見、ご感想、ご寄稿などをお寄せいただければ幸いです。